

商工会女性部はまちに
元気と安心をお届けしています。

はちみつ 通信

コロナ禍のなかでも フリーマーケットを開催し 地域への寄付事業を継続

平川市商工会女性部(青森県)



平川市は、2006年に平賀町、尾上町、碓ヶ関村の3町村が合併して誕生しました。

青森県南部に位置し、平野部には田園風景が広がり、周囲のなだらかな丘陵地帯にはリンゴ畑が連なります。標高の高い地域では高冷地野菜の栽培も行われており、自然とまちが調和した住みよい環境となっています。

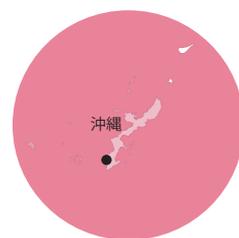
平川市商工会女性部は、3町村の合併にとまない2010年に一つになり、

各地区のイベント協力や交流会などを実施し、活発な活動を展開してきました。しかし、現在では部員数は半分ほどとなり、高齢化や地域イベントの減少も重なって、活動規模は年々縮小しています。

そのような状況下においても、変わらず続けている活動があります。それが地域福祉への寄付事業です。この取り組みは合併以前の旧平賀町時代から行っていた事業で、合併後も10年以上

手づくりお守りの配布や 通学路での見守り活動で 交通安全に貢献

とみぐすく
豊見城市商工会女性部(沖縄県)



通学路で行っている朝の交通安全街頭指導



右上/地域の祭りでの売店活動の様子
右下/売り上げの一部を寄付
左/コロナ禍で開催したフリーマーケット

にわたり継続しています。

当初は地域の祭りに出店した売り上げの一部を寄付していましたが、コロナ禍でそれまで通りの活動ができなくなりませんでした。

そこで、県内の田舎館村商工会女性部のフリーマーケット事業を参考に、まずは部員内で小規模に開催し、その後は感染対策を講じながら一般のお客様にも参加いただく形へと広げ、売り上げを確保することで寄付を継続して

きました。

長年の積み重ねにより寄付額が30万円を超え、一昨年には社会福祉協議会から表彰を受けました。

女性部の活動は、今後も時代とともに変化していくことと思われまふ。しかし、地域福祉に役立ちたいという思いは変わることなく、微力ながらも継続的に地域へ貢献していきたいと考えています。

豊見城市は、沖縄県本島南部に位置し、2002年4月より市制施行によって豊見城市から豊見城市になりました。那覇空港にも近く、交通の利便性が高いことが特徴です。

豊見城市商工会女性部では26年前から市内8つの小学校に通う約1000人の新一年生児童を対象に交通安全啓発運動を行っています。取り組み内容は、環境にやさしいクラフト紙を使用した手づくりの交通安全ストラップ（お守り）の配布です。このストラップは古くから沖繩に伝わる「サンゴワ（魔除けのお守り）」をモチーフに、幸せを呼ぶとされる虹色で制作しており、子どもたちの安全を願う心が込められています。

活動初期に配布を受けた子どもたちが成人し、今では彼らの子どもたちが新一年生としてストラップを受け取るという、2世代にわたる交通安全啓発の循環が生まれています。地域の祭りでも、交通遺児募金活動を積極的に実施。交通事故で親を亡くした子どもた



新一年生に配布する交通安全ストラップお守り

ちへの支援にも尽力しています。

また、2024年度からは、那覇市と豊見城市を結ぶ主要な通勤通学路において、朝の交通安全街頭指導を開始しています。通学する児童・生徒、高齢者を中心にすべての通行者の安全な横断を見守る取り組みを行っています。世代を超えて交通安全意識を受け継ぎ、地域住民の心に寄り添う活動を今後も継続して取り組んでいきます。



地域の小学校での交通安全教室の様子